

一 般 演 題

1. 当科における核医学データベースシステム

本田 憲業 町田喜久雄 秋山 征己
清水 弘明 (埼玉医大・医療セ・放)

マイクロコンピューターを利用した比較的安価な医用画像情報データベースを報告した。使用機器は NEC 製 PC-9801F, CRT ディスプレイ (NEC 製 PC-KD 551), プリンター (NEC 製 PC-PR201)。使用ソフトウェアは日本語 dBASE-II (MS-DOS 版) で, dBASE-II を運用するプログラムは自作した。データベース入力項目は, 患者番号, 患者氏名, 生年月日, 性別, 検査年月日と手技, 検査条件 (労作負荷など), 核種, 標識化合物, 投与量, 検査部位と所見, 診断 (2 つまで), コメントなどである。任意の条件による患者データの抽出が可能である。本法の利点は検索が従来の患者検査台帳に比し, 高速かつ検索条件が自由な点である。大型コンピューターに比した利点は, 安価なことである。今日までの経験では本システムは臨床に役立っている。

2. 放射性医薬品の品質管理

樫田 義彦 (放医研)

1) 昭和 60 年 8 月「放射性医薬品基準」が大改正された。再評価および業者側の製造中止によって ^{32}P (2), ^{59}Fe (1), ^{60}Co (2), ^{89}Sr (1), ^{197}Hg (1), ^{203}Hg (2), ^{131}I (9) (括弧内は製剤数) が削除され, *in vitro* 製剤が別扱いとなった。

2) $^{99\text{m}}\text{Tc}$ 製剤が多目的の核医学診断に適用され多様化する一方, Tc 化学研究の発展に伴って $^{99\text{m}}\text{Tc}$ のキレート構造は単一でなく, 製品について放射化学的純度を確認する必要が判明してきた。このため米国では各社の $^{99\text{m}}\text{Tc}$ 製剤を扱う調製専門薬局の普及と院内調製時の迅速簡易分析の実施が推賞されるようになった。

WHO, IAEA は GRP, Good Radiopharmaceuticals Practise の考えから Preparation and Control of Radiopharmaceuticals in Hospitals を, 英国の BIR は同趣旨の Guidelines を, また米国の B. A. Rhodes は Quality

Control in Nuclear Medicine を出版した。P. J. Robbins の Chromatography of Tc-99m Radiopharmaceuticals の実例も紹介する。

3. 肝 SPECT の臨床的有効度に関する Cooperative Group Study——特に false positive 例と false negative 例の検討——

森 豊	川上 憲司	(慈恵医大)
町田喜久雄		(埼玉大・医療セ)
牧田 幸三	岡田 吉隆	小坂 昇
西川 潤一		(東大・放)
瀬戸 一彦	宇野 公一	(千葉大)
久保 敦司	高木八重子	(慶大)
油井 信春	秋山 芳久	(千葉癌セ)
中島 哲夫		(埼玉癌セ)
村田 啓		(虎の門病院)
日下部きよ子		(東女医大)
小山田日吉丸		(国立癌セ)
内山 暁		(山梨医大)
飯沼 武	松本 徹	山崎統四郎
		(放医研)

RI 協会医学部会エフィカシー専門委員会

肝 SPECT の臨床的有効度について検討した。各施設より集められた確定診断のついた 134 例を対象とし, 11 名の医師がまず Planar image (PI) を単独で, 次に PI に SPECT を加え読影し, 肝区域ごとの SOL の有無を評価した。

SOL の検出に際し, SPECT を加えることは, 右前後区域についてきわめて有効であるが, 左外側区域については, False negative が増加し, Sensitivity の低下を生じた。

SOL なしのび慢性肝炎患症例では, SPECT により, False positive が増加し, Specificity の低下を生じた。

経験年数の長い医師間でも, PI, SPECT 伴所見の取り方にかかなりのばらつきを認めた。